



Sunday

Monday

Tuesday

Wednesday

Thursday

Friday

Saturday

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

園長挨拶

今月は、ある幼稚園の「運動会」の取り組みを紹介したいと思います。子どもに指示を出すことが中心の一時保育型から遊びを通して「子どもの主体性を尊重し、自分で考える子どもを育てる」という保育への変化を見取ることができます。

小学校の運動会との違い

まず、幼稚園(幼児期)と小学校の運動会の違いについて確認したいと思います。小学校の運動会は、教科「体育」の発表の機会です。また、児童が運動会の運営にかかわり、教師が運動会を支える側にまわって会を盛り上げます。これらの点で、幼児期の運動会とは性格を異にします。つまり、幼児期の運動会は小学校の運動会のコピーではなく「幼児期特有の運動会づくり」をしなければならぬのです。幼稚園では、「親と子と先生でつくる運動会」「日頃の運動的な遊びの中から種目を決める運動会」を意識しながらのプログラム構成にしたいものです。運動会で「敬あそび」とはいえ、小学校につながる一面もあります。そのわかりやすい例として、種目の勝敗の「判定の仕方」について一考します。

運動会の種目には、赤チーム、白チームに分かれて勝敗を決する場面が多々あります。例えば、「ネコとネズミ」という遊びがありますが、その園では、赤チームと白チームが別々に遊び、ネコ(先生)に捕まった人数の少ないチームを勝ちとする種目として、運動会においてこれを行っています。ではここで、勝敗を決める際、ネコに捕まったネズミの人数確率の仕方について考えてみましょう。

さて問題です。皆さんは、人数確認をする場合、③と④のどちらの対応をしますか?
③捕まったネズミに負して、「捕まったお友だち、○○のところに出て来てください。1人目のお友だち、2人目のお友だち……」と中央に引いたラインに赤・白のネズミを向かい合せて並ばせる。

皆さんは③派ですか、それとも④派ですか? 実はここに指導のポイントがあります。その園では④の方法をとっています。④の方法であれば、どちらのチームに残るネズミの人数が多いかが一目瞭然となり、先生が「赤チームの勝ち!」と言う前に子どもたちは勝敗に気づきます。そして、「勝った!」と大声をあげてください。③の方法ではそうはなりません。

④の方法は、人数確認時に「敬あそび」を取り入れて行っているのです。この場合、子どもに旗を持たせるなどして、より子どもが楽しめられるように工夫を行うことも大歓迎です。幼児期の運動会では、まず対象は幼児であることを踏まえ、その特性に十分着目すべきです。種目は、日頃の遊びの遊び重ねから生まれるのです。「幼稚園園長が教える学びの種」(執筆 渡邊真一・保育ナビ 2014年9月号) 60-61頁より。

みんなの力を合わせよう

最終お話し
終わり少し早く幼稚園
に帰って来てください。園
自の中でお楽しみを見たり
ごさーの行事やダンスなど
大々的に行なわれます。本園
か「居る」で「遊ぶ」です。

親御工作を楽しんで
います。お部屋さんやおいし
い遊び、ある子の発想から園
の影響が広がっています。遊
具の入れ替えなど、ありかた
次第が増えています。その色

之時期から活動に
関与しを育て、次の活動
を始める。次の活動を
楽しんで、同じ時間を
子ども達が見つけ出す
遊びの楽しさを伝えて
あげたい。

